

# フレイル フレイルと リハビリテーション

東邦大学大学院医学研究科リハビリテーション医学講座 海老原 覚

## KEY WORDS

- フレイル
- 認知フレイル
- 口腔フレイル

## はじめに

高齢者の機能・予備能低下による健康障害が増大した状態をfrailtyと呼び、議論・研究が行われてきた。日本老年医学会はfrailtyの認知度を高め、予防の重要性を広く啓発するため、frailtyを「フレイル」と訳すことを提唱した。フレイルと発音される英語(frail)は形容詞であるが、これをカタカナ表記してfrailtyを表す名詞として使おうということである。このことを2014年2月に決定し、5月8日にプレスリリースすると、この用語は世間の関心をもって徐々に広がり、2015年5月26日第7回経済財政諮問会議における提出資料で、重点的に行うべき事項である「高齢期の疾病予防・介護予防等の推進」のなかに「高齢者の虚弱(フレイル)に対する総合対策」という文言が出現した。その後、2015年10月2日の第89回社会保障審議会医療保険部会においても、フレイルに対する詳細

な説明がなされ、フレイル対応の重要性が強調され、行政用語としても定着した。

これらの資料でも記載され重要視されているのは、フレイルには多面性があるということである(図1)。低栄養・転倒の増加や口腔機能低下などの身体的フレイルに加えて、意欲・判断力や認知機能低下・うつなどの精神的フレイル、そして閉じこもり・孤食といった社会的フレイルも重要な介入すべきフレイルであり、それぞれのフレイルは密接に関連している。

## I. フレイルに対するアプローチ

フレイルの本体は多面的であるので、フレイルのスクリーニングおよび介入方法で最も有効と思われるのが、学際的医療チームによる包括的チームアプローチである(図1)。そこで、筆者が勤務する東邦大学医療センター大

Frailty and rehabilitation.  
Satoru Ebihara(教授)